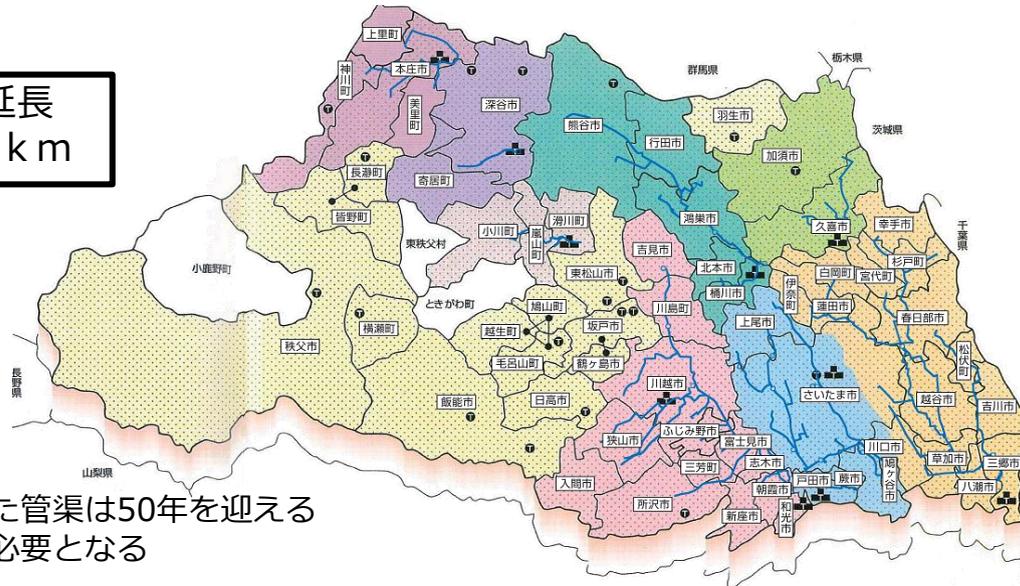


管路点検について

平成31年の下水道管からの漏水を受け、再発防止対策のために管路(管渠)の調査点検の必要性を再認識ワーキンググループを立ち上げ、腐食の恐れのあるすべての箇所について対応を検討し、方針を決定する。

1. 埼玉県流域下水道管路図

管渠総延長
約438 km



- ・当初整備された管渠は50年を迎える
- ・老朽化対策が必要となる

2. 現状の課題

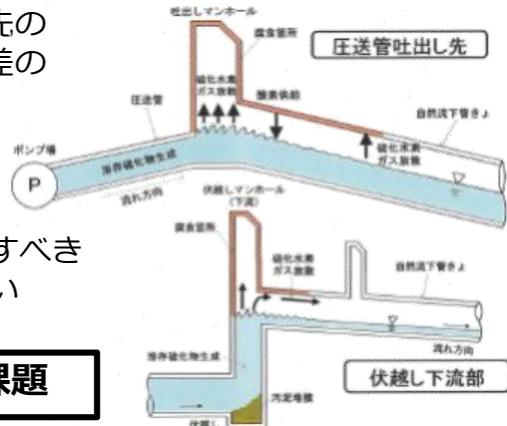
○漏水事例 (H31.1)

- ・入間川に架かる落合橋の下を通る下水管から漏水
- ・橋下を通すため、地上高に下水を圧送する管が腐食していた



○下水道法による点検義務

- ・腐食の恐れのあるものは、5年に1回の点検が義務
- ・腐食の恐れのあるものとは、圧送管吐き出し先の気相部や伏せ越しの下流吐き出し部、段差・落差の大きい気相部など



- ・腐食の恐れが大きいところほどしっかりと調査すべき
- ・段差や落差の大きいところは簡易な点検も難しい

腐食の恐れのある管路の調査点検が課題

3. 管路点検方法の見直しに係るWG

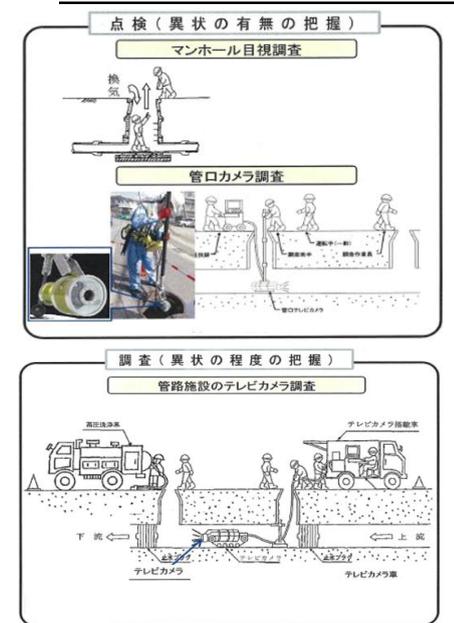
○ワーキンググループの活動

- ・令和元年5月 設置
- ・令和元年11月 管路施設の維持管理要領を改定し、腐食の恐れのある箇所(圧送管・伏越管等)を定め、漏れなく点検することを明記
- ・令和2年度 腐食の恐れのある箇所の抽出
それぞれの点検調査の可否について検討
新たな調査方法の試行

- ①逆勾配圧送管への大型自走式カメラ調査
- ②水管橋圧送管空気弁からのカメラ調査

○問題箇所の抽出 (令和2年度末)

- ・圧送管・伏越管の全長 約24.5 km
- ・うち腐食の恐れのある箇所 約10.5 km
- ・うち調査困難箇所 約4.4 km



4. 今後の対策

○調査困難箇所(圧送管)の対策についてWGで検討

- ・圧送管出口からの調査ができるか検討
- ・水管橋など空気抜弁がある場合は、管口カメラ調査ができるか検討



- ・2条化などの抜本的な改築方法について検討
⇒2条化後に既設側のメンテナンス性向上のための改築方法を検討

○調査困難箇所(伏越管)の対策についてWGで検討

- ・改築工事で横断ゲート・角落しの不具合を是正し、水替えを可能にする方法を検討

管口カメラ調査試行事例

今年度のWGの中で全ての調査困難箇所の対応方針を決定